

2016 年度版のホームページの更新とご挨拶が大変遅くなりました。東北大学名誉教授大塚康夫氏、そして東北電力株式会社火力原子力本部副本部長佐久間直勝氏の後を引き継ぎ、東北支部長を務めます秋田大学の菅原です。

2011 年に東北支部が誕生して以来、今年で 5 年目となりました。これまで支部の主催行事として、エネルギーに関わる様々な技術や話題を取り上げた講演会や見学会を、仙台と秋田で交互に開催して参りました。これからは東北の各地区でのエネルギーに関わる取り組みや特色を取り入れながら、山形はじめ順次各県での開催を企画していく予定であります。

さて今年の夏は日本全国猛暑が続き、エアコンの有り難さを強く感じた方が多かったのではないのでしょうか。暑さと言えば、外気温 40 数度の地に行き、まさにエアコン延いては電力の有り難さを痛感してまいりました。JICA 資源の絆プロジェクトの一環で、アフリカ、モザンビークの大学に行き来しております。モザンビークは、かつては内戦が続いたものの今では政情も安定し、石炭や石油、鉱物等の資源に恵まれていることから、今後の経済発展が期待されています。しかしながらエネルギー資源は十分にあるものの、発電所も送電網も極めて不足で国民の 3 割しか電気の恩恵に浴していないのが現状です。頻繁に起こる停電のため 40℃を超える空気がホテルの室内にどんどん流れ込んで来ますし、またエレベーターも途中で止まる可能性も有るので乗るのにも躊躇せざるを得ません。停電しないかつ質の良い電気がいつでも使える日本の有難みを実感しました。

ところで今年は EU からの英国の離脱、EU 内への大量の移民の流入、テロ等々、多くの出来事が発生しており、ヨーロッパにおけるドイツの役割がこれまでになく大きなものとなっています。その中でドイツのメルケル政権は、福島第一原発事故を受けて、「エネルギー転換政策」を掲げ、電力消費量に占める再生可能エネルギーの割合を、2050 年までに 80% までに高める目標を提示しました。しかしながら早くも固定価格買取制度に基づき消費者に転嫁される賦課金が高騰し、さらに技術面でもエネルギー転換の実現性に疑念が高まっており、いずれ修正が余儀なくされることでしょう。ドイツ社会の変化の唐突さはしばしば指摘されることではありますが、翻って日本ではドイツに比べ将来に亘るエネルギー安定供給が確保されているとは言い難い状況ですし、地球温暖化対策を含む環境保全を促進しつつ、資源の持続可能な範囲内の豊かな経済活動の維持を模索していかねばなりません。

一筋縄ではいかないエネルギーの問題ですが、世界の動きを注視しながらも足元での具体的で着実な解決への方策を東北支部でも提言していきたいものと思います。ところで初代支部長の大塚康夫先生が本年の 2 月に日本エネルギー学会の功績賞を受賞されました。晴れの受賞を皆様にご披露致しますとともに、引き続き本支部活動へのご理解とご協力・ご支援をお願い申し上げます。支部長の挨拶とさせていただきます。